



2012年度

**関西会場における「製品総合管理特論
—製品安全対策の基礎知識」の進め方**

2012年1月30日

開講機関報告

製品評価技術基盤機構／関西大学社会安全学部／NPO法人関西消費者連合会

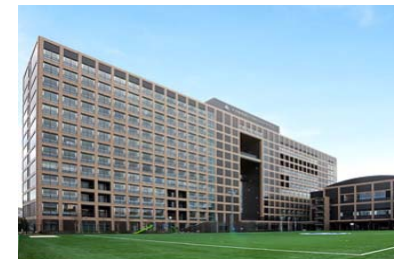
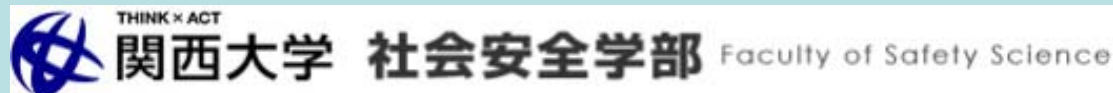
◆2012年度 知の市場

製品総合管理特論—製品安全対策の基礎知識

関西会場における、知の市場「製品総合管理特論—製品安全対策の基礎知識」は、2011年度までは製品評価技術基盤機構／NPO法人関西消費者連合会が担ってきたが、2012年度から製品評価技術基盤機構と同様に社会的リスクの低減を目指す、関西大学社会安全学部が開講機関を担当する。

また、社会人再教育は事業者や学生だけに関心をもっていただけでなく、消費者にも強い関心を抱いていただくため、引き続き、NPO法人関西消費者連合会も関西会場を担当する。

1-2 機関の紹介と抱負



…関西会場担当

2010年4月、地震や台風、火山噴火などによる被害、運輸の事故や家電製品事故、建築物の耐震偽装、食の安全など私たちの暮らしが安全で安心して暮らせる社会を実現するために、高度な専門知識と実践的なスキルを備えた人材育成をするために設立されました。

◆NPO法人関西消費者連合会

…関西会場担当

1962年、商品についての調査・研究、公正な情報の提供及び普及啓発を通して、消費者の利益を保護し、消費生活の向上を図ることを目的として誕生した消費者団体。

1-3 機関の紹介と抱負

NITEは「くらしの安全・安心」を支援しています

ナイト(NITE)は、製品事故の公的な原因究明機関です。

製品事故の原因を分析して、経済産業省と連携して製品の改善等のものづくりや製品の回収などの事故対策に貢献することを使命としています。

信頼できる技術と情報の提供

製品事故の調査・分析、安全情報の提供

微生物の保存提供、ゲノム解析

バイオテクノロジー分野
微生物のパワーをバイオ産業の発展に活かす

製品安全分野
暮らしの安心を支援
安全・安心に関する情報を発信

nite

試験・検査機関の信頼性評価

適合性認定分野
市場のグローバル化に対応し、国際ルールによる認定を実施

化学物質管理分野
化学物質総合管理の知的基盤整備と技術的支援を行う

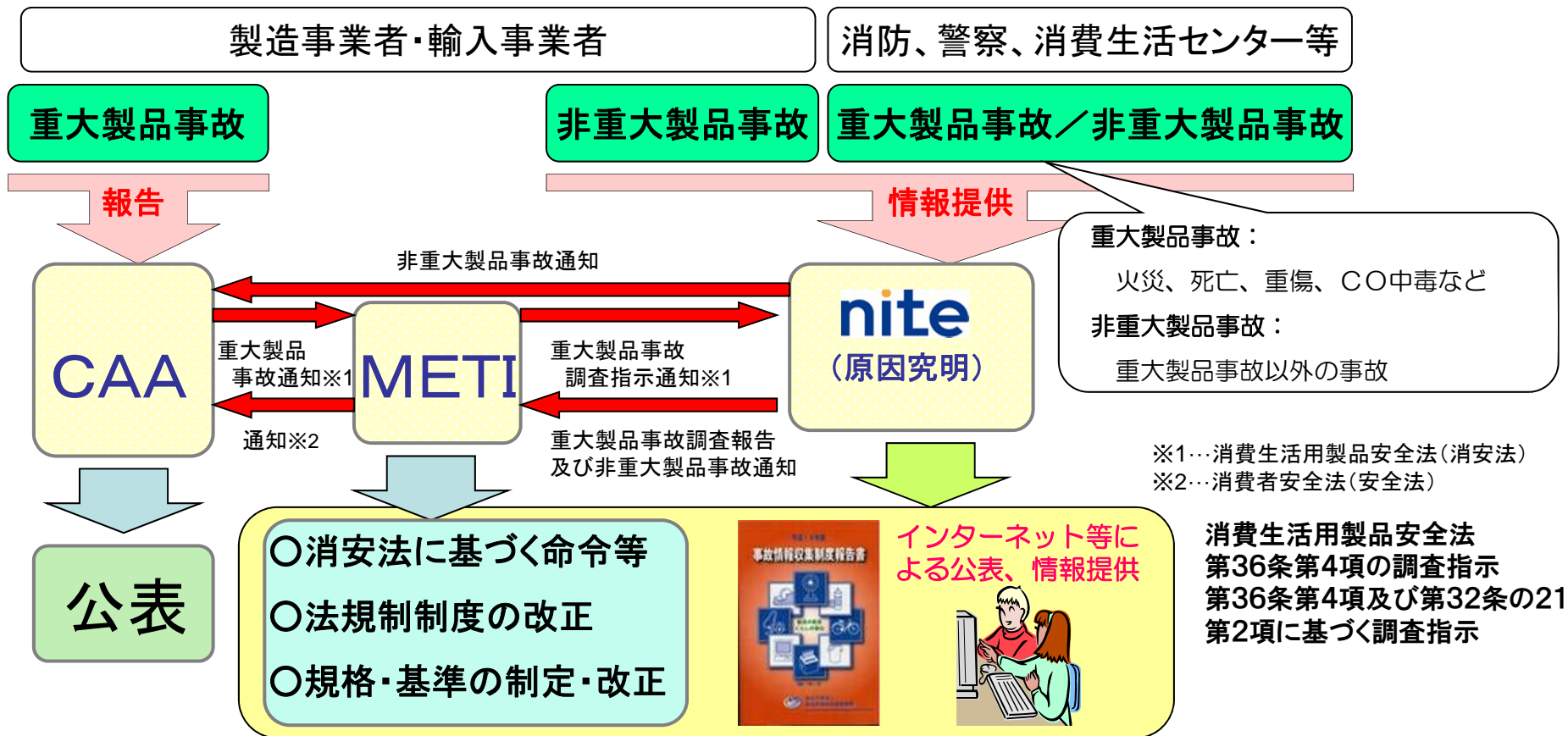
化学物質の安全情報の提供

様々な分野の技術者が結集
約120人の技術者が
全国10か所で事故原因を究明

1-4 機関の紹介と抱負

国民生活の安全、安心を支援

消費生活用製品安全法等に基づき、消費者が使用する工業製品に関する事故の情報を収集し、原因を究明。その結果を公表、情報提供し、また、行政庁への政策提言を行うとともに、規格・基準の策定も実施。



平成19年5月14日、改正消費生活用製品安全法が施行され、大臣に報告があった重大製品事故についてNITEが調査を行うことが法定化。また、改正法施行にあわせて出された通達により、非重大製品事故についてもNITEに情報が提供されている。

1-5 機関の紹介と抱負

近年、消費者が使用する製品の安全性が大きくクローズアップされ、種々の製品事故が顕在化し、これを受けて、政府においても消費生活用製品安全法の数度にわたる改正を行う等、製品安全政策の見直しが行われています。製品安全はテレビ報道、新聞報道される機会が増加し、社会に強い関心を持たれています。今や、製品安全に関する知識は、社会人が活動していく上で必要な情報となりつつある。



事故情報関連の内容に止まらず、製品事故の現状と防止対策、製品安全における法令・制度などを体系的に製品総合管理特論として組み立て、製品安全を社会に理解されるように、製品事故の現状と製品安全政策について具体的事例に基づき分析して考察するとともに、今後の事故防止方策や政策のあり方について論じる。

◆関西会場

製品評価技術基盤機構
／関西大学社会安全学
部／NPO法人関西消費
者連合が共催・協力して
開催

◆東京会場

製品評価技術基盤機構
／主婦連合会／早稲田
大学規範科学総合研究
所が共催・協力して開催

2-1 知の市場の活動（科目の紹介、要望、提案）

事故情報関連の内容に止まらず、製品事故の現状と防止対策、製品安全における法令・制度などを体系的に製品総合管理特論として編成。

(1) 製品事故の現状(第1回～第3回)

1974年に事故情報収集制度が発足しているが、これに加え、2007年5月からは、重大製品事故の報告・公表制度が発足した。これまでの制度の変遷で、事故情報の通知がどのように変化してきたのであろうか。また、発生している製品事故はどのような傾向があるのだろうか。NITEが収集している事故情報をさまざまな角度から分析し、最近発生した特徴的な事故と原因の具体事例を通じて、製品事故事例を解析する。

2-2 知の市場の活動（科目の紹介、要望、提案）

(2) 製品事故の防止対策（第4回～8回）

誤使用事故防止のために、製品側において安全を担保すべき範囲の考え方、誤使用を防止するための視点、製品設計上の留意点等を論じる。一方、誤使用・不注意が原因の事故の背景には、製品の安全性に対する過信や危険の認識の低さがあり、実際に発生した誤使用事故、子どもの事故、高齢者の誤使用による事故など、その背景を論じる。製品のどの部位に危険が存在し、その危険がどの程度であるか特定・評価するリスクアセスメント手法、効果などについて論じる。

また、問題のある製品を社会から回収等するためにリコールが行われているが、我が国におけるリコールの現状を分析し、リコール制度や、その在り方について論じる。

(3) 製品安全における法令・制度（9回～15回）

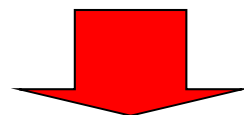
我が国の消費者行政（製品安全）は国、地方自治体、国民生活センター、NITE等の公的機関が分担して役割を担っているが、その状況を概観する。認定・認証制度は国内外ともに一定水準の安全性を担保する役割を担う点で極めて重要であり、果たす役割について論ずる。

被害者救済制度の整備、裁判外紛争処理、1995年に施行された製造物責任法（PL法）について論じる。さらに、我が国の製品安全政策と化学物質管理政策の類似点・相違点について考察する。また、今後の製品安全政策の課題や技術基準の在り方を考察するとともに、階層的規格体系の考え方やあるべき姿について論ずる。

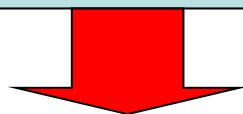
3-1 改善された事例の紹介

2008年8月から、前身の「化学・生物総合管理の再教育講座」で製品評価技術基盤機構／主婦連合会で「製品安全概論－製品安全対策の基礎知識」をテーマとして社会人のための公開講座を開講し、12月まで15回の講座を行った。

その後・・・・・・・・



2009年度から、知の市場「製品総合管理特論－製品安全対策の基礎知識」として継承したが、常に定員の約6～8割の受講者の参加が得られ、公募での人気も高く、受講枠が定員に達したために受講できなかった方々も多い。



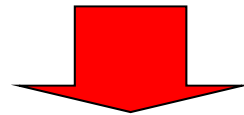
2010年度に、こうした受講枠の改善のため、手狭な会場から余裕のある会場への改善を行った。

その結果・・・・・・・・

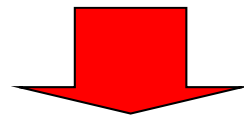
3-2 改善された事例の紹介

2010年度から、早稲田大学規範科学総合研究所の協力を得て、製品評価技術基盤機構／主婦連合会／早稲田大学規範科学総合研究所が共催・協力して行う体制として、東京会場は、四ッ谷主婦会館会場から早稲田大学西早稲田キャンパスで開講し受講枠の拡大を行った。

さらに、要望の大きかった関西での受講機会を設けるために、NPO 関西消費者連合会の協力を得て、関西会場を八尾市立くらし学習館で開催。



関西会場でも、東京会場と同じような受講枠の改善ができないか？と検討。



2012年度は、関西会場の受講枠の改善のため、関西大学社会安全学部の協力を得て、製品評価技術基盤機構／関西大学社会安全学部／NPO法人関西消費者連合会が共催・協力して行う体制とし、関西大学高槻ミューズキャンパスで開講する予定。

4-1 その他、抱負

製品評価技術基盤機構／関西大学社会安全学部／NPO法人関西消費者連合が共催・協力して「知の市場」を開催し、社会人に聴いていただき、広げていきたいもの（その1）

社会的に許容されるとは？

自動車

平成21年度事故件数 736,160件
負傷者数 945,504人
死亡者数 5,744人(1時間32分に1人)

有用性から、社会的に許容されている



包丁

鋭利な部分がむきだしの状態

鋭利であることが包丁の本来機能であり、危険性は明白であることから、社会的に許容されている



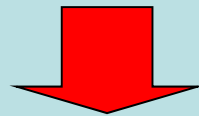
子どもが使用する製品においては、少しでも危ない部分が存在すると、社会的に許容されない。

流通している製品でも、社会的に許容されないものは、リコールなどで市場から撤去させられる。

4-2 その他、抱負

製品評価技術基盤機構／関西大学社会安全学部／NPO法人関西消費者連合が共催・協力して「知の市場」を開催し、社会人に聴いていただき、広げていきたいもの（その2）

人間は高い能力を有するにも係わらず、忘れる・気付かない・勘違いなどのヒューマンエラーから逃れられないこと、また、機械も必ず故障するため、人間に規則を守らせる対応だけでは、安全を確保することに限界がある。1990年にISO/IECガイド51を制定。



- ① リスクアセスメントの導入
「合理的に予見可能な誤使用」を明確に見積る
- ② 階層的規格体系の導入
- ③ スリーステップメソッドの導入